

施策評価シート（平成25年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、 快適に暮らしています	施策 主管課	道路課	施策主管 課長名	高橋 雄光	
	施策No.	1	施策名	道路環境の充実	施策の 目指す姿	安全で利便性の高い道路が 整備されています	関係課名				
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民のニーズに沿った市道整備と国県道の整備要望を進めてきましたが、整備や維持補修の要望は現在も少なくない状況です。 除雪機械の老朽化や運転技術者の減少が進んでおり、除雪体制の維持が懸念されています。 市内にある橋長15m以上の橋梁209橋のうち、耐用年数50年を超過した橋は25橋あり、橋梁の老朽化が進行しています。 									

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1)道路の整備
○主要幹線道路、都市計画道路、生活道路の整備
・幹線道路0.7km、生活道路3.6kmを整備
○舗装修繕等の道路環境の維持
・舗装修繕9.6km 補修件数464件
○交通安全環境の整備
・道路整備事業により、歩道1.9kmを整備
○国県道の整備要望
・国県道の整備を直接又は関係整備促進同盟会等で要望
○除雪体制の効率化
・道路除雪1,900km 市域全体の除雪回数12回、効率化のため委託路線の見直しを実施
(2)橋梁の整備・維持管理
○橋梁長寿命化修繕計画に基づいた橋梁の維持修繕や架け替え整備
・橋梁補修事業により朝日橋、天王橋の修繕を実施
・橋梁整備事業により似内橋、豊沢橋、太田橋の架け替えを実施

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
市道の改良率	道路整備の度合いを示す指標	出典:道路課 改良率=改良延長/ 市道延長	%	目標値				56.0	56.2	56.4
				実績値	55.5	55.6	55.7			
市道の舗装率	道路整備の度合いを示す指標	出典:道路課 舗装率=舗装延長/ 市道延長	%	目標値				51.8	52.0	52.2
				実績値	51.1	51.4	51.5			
歩道の整備延長	歩道整備の度合いを示す指標	出典:道路課 道路台帳	m	目標値				174,080	174,380	174,530
				実績値	167,593	172,039	173,970			
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の「市道の改良率」、「市道の舗装率」、「歩道の整備延長」について、平成23年度から平成25年度に順調に推移している。 また、平成24年4月1日現在の岩手県内市町道の改良率は58.7%、舗装率61.4%と比べると少し下回っていることは、花巻市は市域の6割以上が山林原野で山間地が多いことが起因している。

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	貢献度の判断理由
	事業内容(実績)			
1	生活道路維持事業	道路課	A	安全に安心して、快適に通行出来ることに貢献している。
	生活道路の安心・安全を確保するため、修繕や補修、除排雪等の維持管理を行う。 (舗装修繕9.6km、補修件数464件、市域全体の除雪回数 12日)			
2	生活道路整備事業	道路課	A	安全で快適な通行に貢献している。
	安全で快適な道路網を構築するため、市道の新設改良や現道舗装、側溝整備を行う。 (道路改良4.3km、現道舗装3.7km、側溝整備1.1km、防雪柵0.2kmの整備を実施。)			
3	橋梁維持事業	道路課	A	安全で快適な通行に貢献している。
	交通の安全を確保するとともに橋梁の長寿命化を図るため、予防保全型維持修繕を行う。 (朝日橋と天王橋の橋梁補修を実施。)			
4	橋梁整備事業	道路課	A	老朽化した狭隘な橋梁が架け替えにより安全で快適な通行に貢献している。
	安全で快適な道路網を構築するため、市道橋梁の架け替えを行う。 (似内橋、豊沢橋、太田橋の整備を実施。)			
5	交通安全環境整備事業	道路課	A	歩行者の安全確保に貢献している。
	歩行者の安心・安全を確保するため、歩道設置やバリアフリー化等の整備を行う。 (歩道設置1.9km、バリアフリー化0.2kmを実施。)			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

(新たに取り組むべき事業はないか)

・道路ストック総点検の実施をして、老朽化対策、事前防災、減災対策を検討して、長寿命化を図る必要がある。(橋梁、トンネル、道路付属物、道路法面・土工構造物)

6 施策の総合的な評価

(課題)

・良好な維持管理を継続するためにパトロール業務、現場確認、補修、苦情処理の迅速で的確な対応を確保する必要がある。
・道路整備に対する要望が多い状況から、今後も継続的に整備する必要がある。

(今後の方向性)

・今後の道路補修の的確な対応を確保するため、パトロール業務、補修業務の外部委託化について検討する。
・道路法施行規則の改正により、道路構造物を効率的に維持管理するため、5年に1度の頻度での定期点検実施について検討する。